

の	人	モ		先	は		で	し	に	激	能	下	治	S		曜	の	八	
で	生	リ	こ	生	偶	四	直	、	食	痛	が	肢	療	(日	頃	十	読
す	の	ー	の	の	然	十	視	精	事	を	奪	か	法	筋	一	一	、	歳	書
。	意	先	ま	闘	見	代	す	神	も	抑	わ	ら	も	萎	余	に	そ	に	好
A	味	生	ま	病	た	の	る	は	排	え	れ	硬	無	縮	命	惹	の	な	き
L	を	は	た	を	テ	週	残	正	泄	る	、	直	い	性	二	き	道	り	の
S	伝	こ	だ	知	レ	刊	酷	常	も	モ	最	が	神	側	年	つ	標	、	従
の	え	の	希	り	ビ	誌	さ	の	自	ル	後	上	経	索	一	け	か	一	姉
進	る	痛	望	、	で	の	が	ま	分	ヒ	は	部	難	硬	を	ら	と	余	妹
行	教	苦	を	す	、	記	A	ま	で	ネ	肺	へ	病	化	医	れ	思	生	が
を	師	の	無	ぐ	大	者	L	で	は	は	が	と	。	症	師	ま	う	一	送
報	で	中	く	駆	学	、	S	、	出	次	塞	進	激	、	に	し	一	の	っ
道	あ	で	し	け	時	ミ	に	病	来	第	が	み	し	そ	告	た	モ	言	て
す	ろ	、	て	つ	代	ツ	は	状	な	に	り	、	い	の	げ	。	リ	葉	く
る	う	最	死	け	の	チ	あ	の	く	量	、	体	痛	原	ら		一	も	れ
、	と	期	を	ま	恩	・	り	全	な	を	声	の	み	因	れ	た	先	気	た
全	決	の	待	す	師	ア	ま	て	り	増	も	全	を	は	難	一	生	に	一
米	意	日	っ	。	モ	ル	し	を	、	し	失	て	伴	不	病	冊	と	な	の
に	し	ま	か		リ	ボ	た	自	し	、	う	の	っ	明	A	の	火	る	の
世	た	で	、		ー	ム	。	ら	か	遂	。	機	て	で	L		の	こ	本

し	カ		も		日	論	味	社	ミ	様		で	約	の		手	共	ラ	界
、	に	モ	講	多	」。	文	が	会	ッ	々	そ	、	束	た	も	を	感	イ	に
困	渡	リ	義	く	二	と	、	、	チ	な	の	教	を	め	う	借	や	ン	発
窮	っ	ー	よ	の	十	し	十	結	は	問	頃	師	し	に	一	り	相	ー	信
す	た	先	り	医	年	て	四	婚	ー	題	、	を	ま	火	つ	て	談	に	す
る	難	生	介	療	前	出	回	、	人	を	ミ	生	す	曜	、	全	の	出	る
生	民	は	護	機	か	来	の	老	生	抱	ッ	き	°	日	先	て	声	演	A
活	の	ロ	の	械	ら	た	講	い	の	え	チ	る	激	を	生	に	が	し	B
の	子	シ	量	と	の	の	義	、	意	て	は	姿	し	空	は	往	寄	、	C
中	で	ア	が	介	ロ	が	で	死	味	い	、	は	い	け	遠	信	せ	世	テ
で	し	で	増	護	ン	ー	話	、	ー	ま	仕	壮	痛	て	路	し	ら	界	レ
、	た	兵	え	者	グ	モ	し	許	を	し	事	絶	み	、	訪	て	れ	中	ビ
教	°	役	て	に	セ	リ	合	し	問	た	や	で	と	最	れ	い	、	か	の
育	六	を	い	困	ラ	ー	わ	な	い	°	家	した	硬	期	た	き	ボ	ら	毎
熱	歳	拒	き	ま	ー	先	れ	ど	ま	モ	族	°	直	の	ま	ま	ラ	励	週
心	で	否	ま	れ	で	生	、	、	す	リ	の	°	が	授	す	°	ン	ま	の
な	母	し	す	、	す	と	そ	人	°	ー	家	進	進	業			テ	し	ー
育	を	ア	°	ミ	°	の	の	生	家	先	族	む	む	を			イ	や	ナ
て	亡	メ		ッ		火	卒	の	族	生	、	身	身	行			ア	慰	イ
の	く	リ		チ		曜	業	意		に		体	体	う			の	め	ト

ど		さ	は	で	「	立	支	切	モ	か	の	会	く		察		を	社	母
こ	人	れ	惜	も	愛	つ	え	な	リ	れ	目	は	生	何	が	モ	導	会	の
ろ	生	、	し	、	」	よ	ら	も	ー	て	的	、	き	よ	込	き	科	お	
に	の	心	い	そ	が	う	れ	の	先	、	で	も	る	り	め	出	学	か	
な	一	豊	い	れ	大	に	、	は	生	あ	あ	の	こ	「	ら	す	の	げ	
る	番	か	い	を	切	生	必	「	は	る	る	や	と	も	れ	姿	教	で	
の	の	な	ま	本	な	き	要	愛	指	か	か	カ	を	の	た	勢	授	、	
は	基	日	気	当	こ	る	と	」	摘	の	よ	ネ	強	「	、	で	で	大	
家	盤	々	付	に	と	こ	し	あ	し	う	う	、	い	が	優	、	、	学	
族	は	が	け	気	に	と	、	る	ま	な	に	車	ら	大	し	人	生	教	
以	「	約	ば	付	誰	が	さ	と	す	こ	そ	、	れ	事	く	気	達	授	
外	家	束	そ	く	も	ど	れ	。	こ	の	の	家	る	と	率	の	と	と	
に	族	さ	の	の	異	ん	こ	「	の	こ	持	を	経	す	直	教	一	な	
無	「	れ	先	が	論	な	と	お	社	と	つ	持	济	り	な	授	緒	っ	
い	現	ま	の	老	は	に	。	互	会	に	こ	こ	至	込	も	で	に	た	
。	代	す	人	い	無	尊	人	い	に	一	重	と	上	ま	の	し	考	人	
家	で	。	生	て	い	い	に	が	番	番	き	が	の	れ	で	た	え	で	
族	は		が	か	の	「	役	支	大	一	が	人	現	、	し	。	答	し	
か	よ		満	ら	で	と	に	え		番	置	生	代	忙	た		え	た	
ら	り		た	で	す	と	に	え		大	置	生	社	し	。			。	

子	た	り	信		ま	な	教	ち		い		と	し	し	ま	て	い	の	得
供	。	ま	が	少	す	ス	師	、		ま	ミ	と	し	、	れ	は	る	関	ら
を	再	す	途	年	。	ポ	に	人	「	の	ッ	も	が	、	、	は	と	係	れ
持	生	。	絶	時		丨	な	か	好	仕	チ	多	あ	妥	愛	ま	い	か	る
と	す	ス	え	代		ツ	っ	ら	き	事	は	く	る	協	の	の	ら	支	
う	る	ペ	て	の		ラ	た	奪	な	を	、	の	け	、	思	感	は	え	
と	家	イ	い	弟		イ	ー	わ	こ	好	混	も	れ	話	慨	、	得	と	
ミ	族	ン	た	と		タ	と	な	と	き	沌	の	ど	し	。	が	か	愛	
ッ	の	に	た	の		丨	語	い	仕	に	の	を	、	合	強	た	愛	、	
チ	絆	住	っ	確		の	る	仕	事	な	社	失	結	い	ま	い	。	思	
は	が	む	た	執		仕	先	事	に	れ	会	う	婚	、	。	見	い	や	
真	生	弟	一	に		事	生	。	す	ず	の	こ	し	価	結	守	り	、	
剣	ま	か	人	、		に	に	私	こ	悩	醜	と	よ	値	婚	っ	、	気	
に	れ	ら	の	二		転	、	は	と	ん	聞	な	う	観	は	て	く	遣	
考	た	返	弟	十		職	ミ	そ	、	で	を	る	と	を	互	れ	る	い	
え	の	信	と	年		し	ッ	れ	人	い	記	。	し	共	い	る	人	は	
ま	で	が	連	も		、	チ	を	に	ま	事		な	有	を	が	が	他	
す	す	来	絡	の		充	は	考	役	し	に		い	す	尊	生	つ		
。	。	ま	を	間		実	好	え	立	た	す		の	る	重				
		し	取	音		し	き	て		。			は	難					

世界の中に人に励まし の言葉 を贈り、 心地良	するまで教師たりき ーと刻んで ーと願って。	先生は静かに逝き ました。ー私の墓石 にー死	の癒しの言葉を残し、 家族全員に見守られ て	ば魂は愛する人々の心 に残る。悲しむ家族へ	人は亡くなっても、 その人を思う人がい れ	す。	く生きねばと、その生 き方を探してしまいま	はその日を恐れま す。今からでも少し でも良	で思うのは人間なら ではの思いでしよう。 私	苦しむ、謙虚な先生 の姿が痛ましい。死 の床	になっ てい るか、 する べき こと をや った か と	ると嘆く先生。 そして、 自分が なり たい 人 間	しま った 友人、 一 番 厄 介 な の は 自 分 自 身 で あ	後悔の念も湧 きま す。 頑 な に 許 さ ず 苦 し め て	病状が進み、 声も掠れ、 過ぎ し 日 を 思 え ば	ます。 ミ ッ チ は 新 た な 人 生 を 見 つ け た の で す	葉は学 ぶも のの 背 中 を 優 し く 押 す の を 実 感 し	自分 を 変 え て い っ た ミ ッ チ 。 優 れ た 教 師 の 言	モ リ ー 先 生 の 最 期 の 授 業 を 受 け る こ と で、
----------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	--------------------------	-----------------------------	----	--------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	--	--	--	--	---	--	--	--	---

